

3-2

園種別ワークショップ

遊びの質を高める保育のあり方

Workshop

「遊びが 学びの保育」の 実現を阻むもの

第2部のワークショップは、公私立、また幼稚園、保育所の枠を超え、保育者が『遊びが学びの保育』の実現を阻むもの』について率直に語り合う場となった。幼稚園と保育所のグループに分かれて議論した内容を発表し合い、全体で共有した。ファシリテーターは、幼稚園グループは玉川大学准教授の大豆生田啓友先生、保育所グループはベネッセ教育総合研究所発行の『これからの幼児教育』編集長の橋村美穂子が務めた。



いかに若手をフォローして 保育者の資質を高めていくか

はじめに幼稚園グループの議論の内容を見てみよう。参加者は、公立幼稚園長2名、私立幼稚園主任、公立幼稚園出身の幼稚園教員養成課程講師の計4名。自己紹介を経て、「遊びが学びの保育」を展開する上での課題を付せんに記入することから始まった。

以下、議論の一部を掲載する。

大豆生田● 全員が保育者の資質に関する課題を記入しています。

台東区・公立幼稚園長● 特に若い保育者は自身が遊んだ経験が少なく、「こういう遊びが楽しんだらう」というイメージが湧きづらいようです。現場の中で経験させる必要があると感じます。

品川区・公立幼稚園長● 保育雑誌などを読んで勉強しても、自分が体験していないため、その活動を通して何を感じさせるかといった深いところまで考えずに進めてしまう保育者も見られます。

幼稚園教員養成課程講師● 経験が少ないことが、子どもの遊びの意味や面白さを読み取る力の弱さにつながっているように思います。

台東区・公立幼稚園長● 経験を通して次第にレベルアップするので現場に入ってからでも間に合わないことはないと思います。ただ、最初から、予測したり、とっさの援助をしたりする力を期待するのは難しいかもしれません。

江戸川区・私立幼稚園主任● 自身の経験が少ないほか、単に忘れていくケー

スも多いと思います。養成課程では、「そういうば、こんなことをして遊んだ」「あの遊びが面白かった」などと思い出させる指導が必要でしょう。

品川区・公立幼稚園長● 逆に経験が多い人の落とし穴が、自分の経験だけで判断してしまうことです。目の前の子どもの思考や工夫を見ようとせず、「こう展開するはず」と先読みし過ぎてしまうことがあります。

台東区・公立幼稚園長● オールマイティである必要はありませんが、1つのことを突き詰めて何かを見出した保育者は、他のことも深い視点で見られるような気がします。

大豆生田● 経験が少ない保育者は、主に学び合いにより育つのでしょうか。

品川区・公立幼稚園長● 確かに保育者同士の学び合いは大切ですが、若手ばかりの園では難しくなります。有難いことに私の園にはベテランの保育者がいますが、苦勞されている園は多いようです。園長と若い担任の間に、経験のある保育者がいてフォローできると上手く回ると思います。

大豆生田● 中間的な存在の役割が大きいということですね。

品川区・公立幼稚園長● そうですね。保育は言葉で教えられる以上に、見て学ぶことが多いと思いますので。

大豆生田● 保育者の資質を生かすためには、「やりたいことができる」という風土も大切だと思います。

台東区・公立幼稚園長● そこは園長の考え方が大きいと思います。

江戸川区・私立幼稚園主任● まず保育者によってワクワクするポイントが違うことから認める風土が大切ではないのでしょうか。保育者が生き生きと保育できる環境が、豊かな遊びをつくる根っこになると思います。また、いかに保育者に自信を持たせ、失敗を許容する環境をつくるかがキーになるのでは

ないでしょうか。

大豆生田● 最近の保護者からは、「小学校に備えて英語を教えてほしい」「文字の読み書きを教えてほしい」というような声がよく聞こえてきます。

台東区・公立幼稚園長● 保護者には遊びの大切さを伝えていますが、難しいのは、英語や読み書きなどを大切にする園も存在することです。そういう園を否定するような表現はできませんので。

品川区・公立幼稚園長● 入園保護者会などでは映像を活用し、「この遊びの中で、こんな体験をして、こういう育ちにつながっています」と説明するようにしています。どうしても目に見える成果が優先されがちですが、それにめげず、遊びの大切さを発信し続けることが、私たちの使命だと思っています。

幼稚園教員養成課程講師● 保護者にも、遊びのプロセスと一緒に経験してもらおうというやり方もありそうです。

品川区・公立幼稚園長● そうですね。保護者会では、子どもの活動に似たグループワークを体験してもらおうなどしています。

幼稚園教員養成課程講師● 一人ひとりの子どもの姿を通し、「こんなふうに変わってきた」「物事に意欲的に取り組めるようになった」などと説明すると納得してもらいやすいと思います。「3歳のときには何もできなかったのに、す



ごい成長ですね」などと、少し長いプロセスで成長を知らせることも必要でしょう。

江戸川区・私立幼稚園主任● 保護者だけではなく、社会が幼稚園に対して抱くイメージがずれていることも多い気がします。例えば、幼稚園の活動というと鼓笛隊などを思い浮かべる方が多いのですが、そうではなく、遊びが大事であることを、はっきりと伝える必要があります。

保育所グループでは 時間・空間の制約が 大きな課題

続いて、保育所グループの議論の様子を見てみよう。こちらは、公設民営保育園長、公立保育園長（2名）、私立保育園長の計4名で議論を行った。

橋村● 保育者の資質に関する記入が多いようです。

山形県・私立保育園長● 先生がワクワクできないと、遊びは広げられないと思います。

江東区・公設民営保育園長● それは先生が主導するということですか。

山形県・私立保育園長● 保育者が遊びの中心になるというより、共感できるかどうかということです。子どもと遊びを分かち合えるか、とも言えます。例えば、石をひっくり返すと、ダンゴムシがうじゃうじゃと出てくる。子どもと一緒に、ひっくり返す瞬間を楽しめるかどうかです。

北区・公立保育園長● 保育者が遊びの中に入っていくことは、逆に言えば、子どもの遊びを奪ってしまう危険性もあります。それを十分に意識した上で、子どもに対して「面白いことを見つけたね」と言ってあげられるかどうか大事だと思います。

橋村● 共感とは、具体的にはどういうことですか。嬉しいことがあった時に共感するとか、そういうことでしょうか。

山形県・私立保育園長● 例えば、石をひっくり返してダンゴムシが出てきたら、「わーっ」と、子どもの気持ちに共感しながら演技する。その時には、保育者も一瞬、童心に返ってワクワク感を持つことが大切だと思います。

北区・公立保育園長● 「これをしたら、こうなるだろう」という予測を持ちながら、保育者自身も面白がるということかもしれません。変な言い方ですが、なかなか「俳優」のように振舞えない保育者が少なくありません。ちょっと固さがあるというか、真面目過ぎるというか。発想に「ねばならない」的などころがあるように感じます。

品川区・公立保育園長● 「教えなきゃいけない」と思い込んでいるのではないのでしょうか。若い保育者に対して、「一緒に遊んで、心を通じ合わせるのが大事だよ」と言うと、「遊んでいいんですか?」と驚かれることがあります。安全面の配慮などに精力を使い、なかなか一緒に遊び込めないようです。

江東区・公設民営保育園長● 遊びの質とは、どれだけ豊かな体験をしたかということにかかわります。保育者が同じ場面を体験することで共感が生まれますが、保育者自身に体験がないと、遊びの質を判断しづらいように思います。

北区・公立保育園長● 体験不足の保育者に体験させることは大切だと思います。ただ、体験だけでは追い付かないため、先輩から話を聞いたり、自分で学んだり、保育者としての資質を伸ばしてあげられるような環境を園がつけることも必要ではないでしょうか。

江東区・公設民営保育園長● 今の若手は、自分から何かをすることは少ない

のですが、園長がちょっと石を投げると飛び付いて一生懸命にやろうとする素直さがあります。要は、園長があの手この手で保育者の自主性を育てることが大切なのでしょう。だから、保育者の課題を考えるとときに問われるのは、常に園長のあり方だと思います。

橋村● 長時間保育に関する意見も出ています。

山形県・私立保育園長● 自分の勤務が終わっても保育時間は続きますから、保育者同士が子どもや遊びについて話し合う時間があまり取れません。そこは幼稚園と大きく異なる点です。人的配置にゆとりがあると良いのですが、それも難しいのが現状です。

江東区・公設民営保育園長● 勤務時間イコール保育という状況で、プラスアルファの時間を持ってないのが悩みです。記録を優先し、保育がお留守になることは許されませんから。延長保育の環境がどうあるべきかという議論も必要だと思います。

橋村● 保育の時間と空間の環境には、どちらも保育所ならではの課題がありそうです。特に都内では、園庭が狭かったり、定員を超えて受け入れていたりする園もあります。

品川区・公立保育園長● 例えば、ブロックや積み木で遊んでいても、食事の時間には片付けなくてははいけません。遊びと生活のスペースが分かれていれば、連続した遊びができるのですが、それは難しいという保育所はとて多いように思います。

江東区・公設民営保育園長● いわゆる細切れの保育は、できるだけ避けたいところです。1時間半や2時間近くかけて遊んでいると、子どもたちが自分から遊びを見つけて、新たな展開を見せる場面に遭遇しますので、本来はたっぷりとした遊びの時間を保障できるといいのですが。

山形県・私立保育園長● 保育者にも子どもにも十分な時間の保障がないという話が出ましたが、実は保護者も忙し過ぎることが多いのは、保育所の課題だと思います。

幼稚園・保育所ともに 保育者の資質を課題視

各グループから提示された課題が、図①だ。幼稚園・保育所とも、保育者の資質に関する課題が多く挙がった。若手を中心に、遊びの経験が少ない保育者に対するフォローを充実させていくことは、園種を問わず、これからの大きな課題と言えるだろう。

幼稚園と保育所の違いとして、保育所では時間・空間的な制約の大きさが目立った。現場レベルで改善することが難しい課題も含まれるため、今後、政策的な視点からの議論も求められる。

議論の中では、課題の提示だけではなく、改善に結び付きそうな提案も数多くあり、園における遊びのあり方を考えていく上で非常に示唆に富むワークショップとなった。



「遊びが学びの保育」の実現を阻むもの

【幼稚園グループより】

◎保育者について

- ・保育者自身の遊びの経験が不足していないか
- ・園長の考えや園全体の文化が、遊びを大切にしているか
- ・独自性は大事だが、「独善」になっていないか
- ・養成機関や園での研修に課題はないか

◎保護者について

- ・保護者や社会の幼稚園に対するイメージにずれはないか
- ・「遊びが学びである」ということが十分に伝わっているか

◎環境について

- ・行事などが増える中で、子どもが十分に遊べているか
- ・行事が、遊びや生活と乖離していないか

◎場所について

- ・園庭が狭く、遊びが広がらないことがないか
- ・子どもの遊びに即した建物や設備であるか

◎子ども自身の体験について

- ・子どもの体験を支える計画に課題はないか

【保育所グループより】

◎保育者について

- ・保育者自身の遊びの経験が足りているか
- ・保育者の保育経験は不足していないか
- ・保育者の層が薄くなり、モデルとなる存在がいないのではないかと（特に私立保育園）
- ・保育者は子どもに十分に共感できているか
- ・保育者自身がどれだけ豊かな遊びの経験を積んできたか
- ・園長は、保育者の自主的な判断をきちんと受け止めているか

◎保育の時間と空間について

- ・保育の時間や空間が細切れになっていないか
- ・安全面による制約は過度になっていないか
- ・記録する時間は十分に確保できているか

図①